

Ⅲ. DIC 臨床各論

3. 固形癌の DIC と術後 DIC — 如何に生命予後を改善するか? —



北九州市立八幡病院外科 / 消化器・肝臓病センター

副院長兼センター長 岡本 好司 (Okamoto, Kohji)

THROMBOSIS and Circulation

§ 論文のポイント

- [1] 固形癌 DIC の病態の主因は癌から産生される組織因子(TF)であり, 感染症 DIC と比較して多臓器不全の合併は少ない.
- [2] 固形癌 DIC は, 基礎疾患のコントロールが困難であることが多く予後不良であるが, 近年リコンビナントトロンボモジュリンにて DIC 離脱や予後の延長が認められている.
- [3] 術後 DIC のほとんどが感染症であるが, 内科的な疾患と異なり治療における手術侵襲が加わる分, 病態が修飾され特殊であることの理解が必要である.
- [4] 術後 DIC でも, リコンビナントトロンボモジュリンの効果が期待され, 手術自体の発展とともにその頻度は減少傾向にある.

§ キーワード

固形癌 DIC / 化学療法 / 術後 DIC / 感染症 / リコンビナントトロンボモジュリン